

みんなで作る

森ものがたい

2018年12月8日発行 第128号

油山自然観察の森
森を育てる会



〒811-1355
福岡市南区大字松原855-1
TEL: 092-871-2112
FAX: 092-801-8661
http://www.morikai.org/
mail: aburayama@morikai.org



< 11/3 カブトムシの森整備 >

も	く	じ	表紙	1
			活動ノート(9/2,9/23,10/7,10/14,11/3,11/11)	2~4
			特集「カブトムシの森 林床植生調査」	5~6
			油山のお仕事日記「冬の野鳥観察の真実」	7
			リレーコラム「今思う楽しい事」	7
			うん・えー会報告(9/2)	8
			活動予定	8

「森を育てる会」は福岡市油山自然観察の森の保全活動を通じ、広く緑地保全活動を行う市民の育成・交流を行う事を目的とする市民グループです。活動は（公財）福岡市緑のまちづくり協会の助成を受けて行っています。会では、随時、会員を募集しています。興味がある方はメールまたは電話でご連絡下さい。

活動ノート



9月2日(日)
油山自然観察
10:00~12:00



◆参加者：鎌田、林、静間、松雪、川上、国広 計6名
◆内容：油山自然案内人の会の定例活動にスケジュールを合わせて、一緒に自然観察を行いました。自然案内人の会の活動内容は、次週に予定されている「おとなの自然かんさつハイキング（樹木観察会）」の下見です。クスの広場を出発して早々、ヤマボウシ、スダジイ・コナラのどんぐり、コシアブラ、リョウブ、ボタンツルなどを観察しながら、その特徴などの話題で盛り上がりました。クスの広場からセンターまでの100mくらいの距離に30分以上かかってしまいました。センターから一番近い橋の近くにあるクロガネモチにはシンジュサンの幼虫が大発生し、コブシの葉にはアカスジキンカメムシの幼虫が数匹あつまっていました。セキレイ小屋の先の東屋を終点に折り返し。絹糸の滝近くにはヌルデの花が満開で小さなハチたちがたくさん群がっていました。アカメガシワの実も豊作でした。森を育てる会、自然案内人の会それぞれに得意分野があり、自然に関するおしゃべりの尽きない2時間となりました。

9月23日(日)
安全講習会
9:30~15:30



◆参加者：鎌田、静間、榎、国広 計4名
◆内容：今回の安全講習ではまず座学により、伐倒作業に入る前に実施する事として、対象木の選定や足元の確認、伐倒方向の決め方等々を学びました。その後、伐採する時に使うロープワークを繰り返し練習しました。
午後はカブトムシの森に移動してC地区の中央部に位置する樹高13m位の曲がったネムノキを対象木に選定し、作業は経験が一番浅い会員を中心に行うこととしました。まず周りの状況把握をして伐倒方向を決め、受け口、次いで追い口を切って最後はクサビを入れて倒しました。作業後に切り口を確認した経験豊富な会員の評価も上々で、“免許皆伝”を許されました。
森会では、危険な作業も行うため、今回のような勉強会はとても大切だと思います。分っているようで忘れていることがいっぱいなので伐倒する際には、皆で手順を確認しながらの作業をしていきたいと思えます。それと講習会の参加者が少なかったことから、これから本格

的に始まる伐倒作業においては本日行った手順、ルールに則り、熟練者が指導係として安全に作業を行っていきたいと思います。今回は秋の行楽シーズンの3連休中日ということもあり、参加しづらい活動日だったので次年度は参加しやすい日程で活動計画を立てたいと思います。

【ふりかえりより】

•心配したブコなどは出てなかったものの、ヤードにアシナガバチ系のハチがうようよいて焦りました。(静間)

10月7日(日)
アカマツ林整備とカブトムシの森植生調査
9:30~15:30



◆参加者：松雪、国広、静間、川上、鎌田、山川、柴戸計7名
◆内容：前日の台風の嵐から一転して台風一過の爽やかな晴天かと思っていたのですが、晴れたり曇ったりで気温も高い暑い一日となりました。それでも、きれいな秋の青空で、まさに天高く・・・といった気持ちの良い天候ではありました。今日はカブトムシの森での植生調査も並行して行なっていたため、アカマツ林整備は、午前中は4名、午後からは植生調査班の2名を加えた6名での作業となりました。

A~E地区は夏の酷暑の影響か、萌芽枝の繁茂が著しく、

またイバラなどが1~2m前後まで伸びて全体にヤブ山のようになっていたため、これらの萌芽枝等の除伐、それと遊歩道沿いに繁茂していた下草を刈ることとしました。更に余裕があればC・D地区の谷側で見通しを阻害している小灌木類の除伐も行うこととし、10時半頃から活動開始。思った以上に暑い中での肉体労働となつて、皆大汗をかいてフウフウ言いながら作業を進め、午前中でほぼ予定範囲を終えることができました。午後からは、午前中にやり残した萌芽枝除伐や遊歩道沿いで草刈り等を済ませた後、C・D地区境界部の小灌木帯の除伐に取り掛かりました。この作業では、径5~10cmの木を7~8本程度除伐し、その中心部に残っている径15~20cm程度のスダシイやコシアブラなどは次回に伐倒することとしました。これらの作業の結果、A~D地区の斜面も夏前のように比較的すっきりした森となり、また遊歩道沿いもA地区の階段部を除けば歩きやすい道にすることができました。

今後は、C・D地区境界部の灌木や、E地区ヤード横ですくすくと成長し、これ以上になると手を付けられなくなるおそれのあるクスノキなど、本格的な伐倒を進めていくとともに、D・E地区境界部で作業道や材処理ヤードの整備を行っていきたくと思っています。

ところで、今年の暑い気候の影響か、あるいはこれまでの除伐の影響で風通しが良くなり斜面の乾燥が進んだためか、アカマツ幼木の成長が例年以上の伸びになっており、本当に驚かされました。また、A・C地区斜面では赤ちゃん松が一杯出てきており、今後が楽しみです。おそらく、これからは、ア

カマツの幼木間伐が必要になってくるようです。

【ふりかえりより】

・今日は初参加しました。山の中での調査を午前中に行いました。少しずつ草花の名前を覚えられるといいなと思います。午後からはアカマツ林の作業の手伝いをしました。とても楽しかったです。(山川)

10月14日(日) カブトムシの森整備 9:30~15:30



◆参加者: 静間、林、国広、川上、堤、山川 計6名

◆内容: 秋晴れとなって絶好の作業日でしたが、参加者は6名と最近の平均?! 打ち合わせの後、道具を揃え、準備体操をしてカブ森A地区へ向かいました。

作業にかかる前に状況の視察を兼ねて自然観察をしました。幹が折れたエゴノキ、傾いたクヌギに改めて台風の威力を感じました。湿地ではアケボノソウを2株見つけることが出来、クロコノマチョウも2頭確認できました。傾いたクヌギは通直で檜木(シイタケ栽培に使う原木)に良いので、来月の間伐で伐ることになりました。

エゴノキの処理に一人、他は草刈りに掛かりました。園内道路からの入口周辺、飼育小屋周辺、南側石垣周辺から刈っていました。今回も新規導入した大ガマが活躍しましたが、なにしろ広葉樹の萌芽枝や雑草の勢いが半端でなかったのかかなりの重労働でした。

今日はA地区の南西部分が整備できましたが、クヌギの萌

芽枝がハッキリ見えるようになったり、隠れていたツチアケビを見つけることが出来たりと、散策に適した景観になりました。

今回手がつけられなかったA地区東半分は広葉樹の萌芽枝、実生の勢いが強いので、除間伐の合間にでも作業できればと思います。

【ふりかえりより】

・久しぶりの参加でした。カブトムシ小屋の周りを少しきれいにして、こどもたちも興味をもつ場所になったらと思います。(堤)

11月3日(土) カブトムシの森整備 9:30~15:45



◆参加者: 静間、松雪、林、鎌田、川上、柴戸、山川、平野家5名、古寺、杉尾家3名、富山家2名 計18名

◆内容: 今回も作業に入る前に、現場の自然観察と伐採予定木、保護対象木などの紹介をしました。伐採経験のないお子さん連れの参加があったので、当初予定していた直径20cm以上の太いもの以外に、細いものも選んで伐採体験が出来るようにしました。大物については、熟練者を中心に5名で4本、家族参加の一家で2本を伐採しました。また伐採体験の2家族の方も熟練者をリーダーに、2本を伐採しました。

伐採木は葉枯らしするので、玉切りなどはせずに通行の邪魔にならない範囲で現場に倒したままにしています。当初予定していたものが3本残って

いるので、必要なら次回特別活動で追加伐採します。

森会発足当初は家族での参加が多く、保全作業も草刈り中心だったので、活動日のメニューが作業以外にいろいろあったようです。カブ森でのクヌギの伐採が一段落すると、森をさまざまに愉しむプログラムが復活してくるのではと期待した一日でした。

【ふりかえりより】

- 初めての経験はすごく貴重で楽しかったです。(富山)
- やっぱり山はいいですね。秋を感じて作業ができました。(古寺)

11月11日(日) アカマツ林整備、スワッグづくり 9:30~15:30



◆参加者：松雪、国広、織田、鎌田、静間、山川、榎、川上、柴戸、吉田、平野家5名、西岡家2名
計 17名

◆内容：【除伐作業】

今日の作業エリアはD及びE地区です。D地区は、昨年まで見通しがほとんどきかないヤブになっていたのですが、今年から5~10cm位の小灌木を伐ってきたので少しは森らしくなっています。ただこのエリアの地形は崖のような急斜面でなかなか立ち入りが難しい場所です。今日は頑張って除伐範囲を広げて作業しましたが、やはり足場はかなり滑りやすく、除伐した木の処理も結構大変で、安全に十分気を付けながらの作業となりました。午後からは遊歩道近くに密集しているスダジイやコシアブラなど直径15~20cmの広葉樹の

伐倒に取り掛かりました。まず掛かり木を防ぐため、最も成長著しいスダジイを伐倒することとしました。伐り始めると思ったより重心が片寄っていて鋸の入りが悪く、結構疲れる作業となりましたが、体験参加で初めての作業となった方の頑張りのもあり、何とか伐り倒すことができました。

E地区では、まず直径25cm位のクヌギの伐倒から始めました。急斜面に立ち複雑な枝振りになっていたため、枝打ちや足場の整備を念入りに行いました。これにより作業はスムーズに進み、教科書的なきれいな伐倒ができました。午後からは、材処理ヤード内の直径15cm位のホオノキの除伐を行いました。ここも急斜面で、またシダなどがはびこったヤブになっていたため、下草刈りや足場作りなどの準備作業を入念にしたうえで伐倒に取り掛かりました。ホオノキ自体は軟らかいため伐りやすいのですが、足場が悪いため結構つらい作業となりました。それでも、下準備が万全でしたのでこれもきれいな伐倒ができました。なお、伐ったホオノキは、バターナイフやスプーンを作る材料に使うということで玉切りして持ち帰りました。こうした除伐材の有効利用は、まさに森会の理念にぴったりです。

この日の作業は、事故の起きやすい急斜面での作業でしたが、下準備を十分に行ったこともあって、けが等も無く、ほぼ予定時間内に無事に終えることができました。現場作業は「段取り八分」と言いますが、まさにそれを実感できた今日の作業でした。また、子供たちも気持ちのいい秋の森を堪能できたようで、楽しい秋の一日となりました。

【スワッグづくり】



間伐時期を迎えたアカマツの枝を生かして森と親しもうと、昨今流行り始めたスワッグづくりを試行しました。まずは、素材であるアカマツの枝、ゴズイヤコシアブラの果実などを集めました。ブルーシートの上に、それぞれ持ち寄った素材、参考本、リボンなど広げて製作開始。バランスよく束ねるのは中々大変でしたが、できたものから2本の大きなアカマツの幹に渡したロープにつるしていきました。除伐作業班にも見てもらい「なかなかよい」と褒めてもらって一同ほっと胸をなでおろしました。実際に作ってみて、一般参加者を募って体験してもらうには、作り易い「見本」と「素材」を準備できるまでに習熟している必要があると感じました。同時に森の保全で出た材には、スワッグに使える色んな素材があるのを感じ、改めて植物を観察する時間にもなりました。

今後の展開ですが、誰かが「そろそろ、またやってみようか」となりましたら、やってみるといった緩い感じになるのではと思います。家の中で飾ってみたら、野外で見たよりかえって大味でない、きれいな感じでよかったです。体験されたみなさま、ありがとうございます。お疲れ様でした。

【ふりかえりより】

- 山にきて元気になった気がします。娘も楽しんでいました様子です。(西岡)
- スワッグづくりが楽しかった。またやりたい。(平野結子)

カブトムシの森 林床植生調査の報告

カブトムシの森の A 地区では、保全活動が林床植生に与える影響を調べるために、林床植生調査を行っています。2015 年度から年 2 回(春と夏)、あまり種が見られなかったため、2016 年度から春と秋に行っています。

今年度は春(4月15日)、秋(10月7日)に実施しました。

調査は、10m×10mの調査区を4つに分けて、5m×5mの区画4つ(調査区Ⅰ～Ⅳ)で行いました。蕾・花・果実が見られる種を記録すると共に、それぞれの植物の被度の計測を行いました。

被度は、階級の大きい方から、5、4、3、2、1、+の5つに分けられます。

春の調査票を下に、秋の調査表を次のページに示しています。

今年の春の調査では、8種を確認する事ができました。多くは、過去2年間の調査で見られた種と同じでした。これは、ここ数年は間伐等による高木であるクヌギに大きな変化はなく、林床の環境は一定であるためであると考えられます。

カブトムシの森 林床植生調査

実施日： 2018/4/15

実施者： 鎌田 柴戸

科名	種名	被度の階級値				蕾・花・果実 区画Ⅰ～Ⅳ
		区画Ⅰ	区画Ⅱ	区画Ⅲ	区画Ⅳ	
サトイモ科	マムシグサ	+	+	+		蕾(花)果実
アカネ科	キクムグラ			+	+	蕾(花)果実
カヤツリグサ科	スゲ属の一種	+	+	+		蕾(花)果実
セリ科	ヤブニンジン		+	+		蕾(花)果実
ケシ科	ムラサキケマン	+	+	+	+	蕾(花)果実
ナデシコ科	ウシハコベ		+			蕾(花)果実
イネ科	ミゾイチゴツナギ			+	+	蕾(花)果実
ナデシコ科	ミミナグサ属の一種				+	蕾(花)果実
区域外						
スマレ科	ナガバタチツボスマレ					蕾(花)果実
リンドウ科	フデリンドウ					蕾(花)果実
スマレ科	シハイスミレ					蕾(花)果実
スマレ科	ニオイスミレ					蕾(花)果実

一方、秋の調査では、17種類を確認することができました。昨年の秋の調査では、24種類でした。今年度は、昨年より半月遅い調査のため、花が少ないように思われます。

カブトムシの森を思い浮かべても花が咲き誇るというイメージはなく、森の中でひっそりと咲いているという印象しかありません。カブトムシの森の林床植物を増やすために間伐を進めてきました。

昨年に比べ、伐採が進み夏場でも林床に光が差し込

むことが多く、ヤブマメが大部分を占める区域もありました。来年は新五ヶ年計画を元にカブトムシの森では、植物種を多様化するための方策を検討・実施していきます。ご期待ください。また、今年度の調査にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。(鎌田)

カブトムシの森 林床植生調査

実施日： 2018/10/7

実施者： 鎌田 柴戸 山川

科名	種名	被度の階級値				蕾・花・果実
		区画 I	区画 II	区画 III	区画 iv	区画 I ~ iv
カヤツリグサ科	スゲ	1	2	1	1	蕾・花・果実
バラ科	フユイチゴ	1	2	2	-	蕾・花・果実
タデ科	ミズヒキ	1	2	1	+	蕾・花・果実
タデ科	イヌタデ	1	+	+	+	蕾・花・果実
フウロソウ科	ゲンノショウコ	+	+	1	+	蕾・花・果実
イネ科	チヂミザサ	+	+	+	+	蕾・花・果実
キク科	シュウブソウ	+	+	1	-	蕾・花・果実
マメ科	ヌスビトハギ	1	1	+	1	蕾・花・果実
マメ科	ヤブマメ	1	-	3	-	蕾・花・果実
ツユクサ科	ツユクサ	1	2	1	1	蕾・花・果実
ヒユ科	イノコヅチ	-	+	+	-	蕾・花・果実
シソ科	ツルニガクサ	0	-	-	+	蕾・花・果実
イネ科	ススキ	+	-	-	-	蕾・花・果実
キク科	ヨモギ	+	1	-	2	蕾・花・果実
キキョウ科	ジイソブ *	-	+	-	-	蕾・花・果実
ナデシコ科	ハコベ	-	+	-	-	蕾・花・果実
シソ科	トウバナ	+	+	-	-	蕾・花・果実

*ツルニンジンの別名

油山のお仕事日記

「冬の野鳥観察の真実」

油山市民の森・自然観察指導員 小川真樹

今回は、冬の野鳥観察のダークサイドをのぞいてみよう、というお話です。

冬は一般的に野鳥観察の季節と言われます。落葉樹の葉が落ち林内の見通しがよくなると、枝から枝へと動き回る野鳥の姿を発見しやすくなります。またある種の野鳥は群れを作って過ごすので、これまた観察者としては野鳥の存在に気付きやすくていい感じです。発見した野鳥を双眼鏡でじっくり見たら見たで、ふわふわころんとして愛らしくってきゅんきゅんします。やっぱり野鳥観察は冬ですよ！とお客さんにアピールする時は、およそこういった観察者の立場で理由を並べます。

一方、野鳥たちの立場で冬という季節を考えるとどうでしょう。林内の見通しがよくなると小鳥は自分の姿が観察されやすくなります。人間にじっと見られても命まではとられません、天敵であるハイタカやハヤブサに見つかれば命の危機です。またイモムシや昆虫などの動物性のエサが激減するので、小鳥たちは木の実などの植物性のエサが中心になります。カロリーの少ない植物性のエサに頼っているの、体温を維持するためには、自転車操業でひたすら食べ続ける必要があります。

いつかの真冬、クイタダキと言うちっちゃかわい鳥の群れを見つけました。地上に降りて何かをせっせとついばんでいたのですが、近づいても一向に逃げません。ついには公園のハトぐらいの距離でクイタダキを観察することができました。エサをとるのに必死でこちらに気づいていない、または逃げるよりも摂食と体温維持を優先したのだと思います。

小鳥たちが冬に群れを作るのは、天敵とエサの発見効率を上げるためと言われています。ふわふわころんとした姿も、羽毛を立てて体表面に空気の層をつくり防寒に必死になっている場面です。きゅんきゅんの先にあるのは、血眼になって冬を乗り切ろうとする必死な姿なのです。

冬の野鳥観察のダークサイド。そう、それは「やっぱり野鳥観察は冬ですよ！きゅんきゅんですよ！」とお客さんに笑顔でアピールする私の心の中に潜んでいるのです。きゃー怖い。

リレーコラム

「今思う楽しい事」 鎌田 隆

何が楽しくて山で作業をしているか？と聞かれると「虫が好き、自然が好き、子供が好き」。



「市民ボランティア」ってどんなことをしているのだろうと頭を突っ込んだ森を育てる会、もうじき15年、今思う楽しい事

◆生きものを観察すること

田舎育ちの私は、子供の頃は野山で遊んだものです。自由な時間が取れるようになった今、油山で出会う昆虫や植物には新しい発見があります。昆虫は成長する過程で体の形や色柄を変化させるためとても興味深く面白いです。機会があれば皆さんも観察してみてください。

◆自然の中で汗をかいて作業すること

森の木々の中できれいな空気、気持ちの良い風、あたたかいお日様の光を浴びながら無心に作業し、気持ちの良い汗をかくことで頭の先から足の先まで心身共にリフレッシュできます。

◆ものづくりをすること

私は、廃材を中心に面白い物、たのしい物を作ってきました。森会での工作は伐採した樹木や葉っぱを使っての工作の指導、みんなに「こんな風に作ってね」って指導してもそれぞれ感性の違いか、独創的なものが出来上がる。それがまた面白い。

◆老若男女と一緒に活動すること

普段の生活の中ではほぼ体験しない上は70越え、下はおむつを履いたかわいい子、上下関係も男女の隔たりも無く、フランクに話せる間柄が何とも不思議で心が和む。1つの作業について語り、汗をかき、終了時には当日の作業を振り返り、次へ繋ぐ

◆自分の知っている事を人に教えること

植物や生き物の事、作業のノウハウなど教えてもらう事もたくさんあるが自分が知っている昆虫の事、工作の作り方などを教えると驚かれたり、感心されたりするのがうれしい

◆活動を何倍にも楽しくしてくれるやはり子供達

作業の進捗だけを考えれば大人だけの方がぐんと作業が進むが活動の中に子供達がいることで場が和み、皆が癒され、元気をもらえます。子供達もいろんな事を見て、感じて吸収して少しずつ、自然の大切さを理解してくれることと思います。

うん・えー会報告

2018年9月2日(日) 12:50-15:00

出席者: 林、鎌田、松雪、川上、静間、国広、榊、小川 R 計 8名

1. 役割決定、資料確認

2. 7~9月 活動報告(詳細は、会報第127号参照)

・7/21(土)~22(日)カブ森昆虫調査はカブトムシが少なかった。水辺整備は「せせらぎ整備」に変更する。

- ・8/4(土) カブ森昆虫調査(新牛込)、水辺整備(鎌田)
- ・8/19(日)活動説明会・木工教室(小川)

入会希望者1名有り。センターにてフォローする。森会会員の参加が少ない。活動説明会は「森会活動説明会」に変更し森会主催とする。対外への窓口は従来通りセンターが担当。森会は世話役を設置し、共同運営体制とする。

- ・9/2(日) 油山自然観察、うん・えー会(林)

3. 7~9月 特別活動報告

- ・7/16(月) カブ森・草刈

4. 9~12月活動予定(会報128号参照)

- ・9/23(日) 安全講習会
- ・10/7(日) アカマツ林作業(松雪)
- ・10/14(日) カブ森作業(静間)、植生調査(鎌田)
- ・11/3(土) カブ森作業(静間)

→当日は、「櫛木作り」という大切な作業なので、雨天等で中止の場合は、11/18(日)を予備日とする。

- ・11/11(日) アカマツ林作業(松雪)
- ・12/8(土) うん・えー会(林)、木工教室(鎌田)、成木調査(中嶋)

- ・12/16(日) 納会(川上)、カブ森作業(静間)

→炭焼きの試行をする(小川)

5. その他

5-1 作業日が中止になった場合の予備日の設定を希望する(松雪)・・・特に、夏休み前の草刈、櫛木作り等

→2019年度より、予備日が必要な作業については、年間計画策定時に決めておく。

→年間のすべての活動について、中止の場合は、世話役より当日の8:00までにメーリングリストに投稿する。

5-2 CPDの単位取得について

・森会の活動に参加することにより、CPDの単位取得が出来ます。CPD:建設業界の技術者に対する継続教育。

→HP、フェイスブックに投稿し、PRする。

5-3 新5カ年計画(2019/4~2023/3)の今後の進め方、方向について説明有り(鎌田)

6. 発送作業 ①会報第127号

活動予定(2018年12月~)

★〈作業〉〈調査〉〈観察〉は小雨決行

〈うん・えー会〉〈勉強会〉は雨天決行

活動時間: 9:30集合 ~ 15:30解散

★荒天の場合はセンターまでお問い合わせください。

★活動内容は、当日の参加人数、天候等によって変更になる場合があります。

★〈作業〉の標記のある日の服装は「森会スタイル」

(長袖、長ズボンで安全に作業ができる動きやすい服装)でご参加ください。

必要な持ち物は

いぼ付軍手・帽子・タオル・弁当・飲物・おやつ

筆記用具の他、必要に応じて着替え・雨具をご持

参ください。

12月16日(日) 炭焼きと納会

間伐材を使いオイル缶炭焼きに挑戦します。温かい料理を食べながら活動を振ります。

1月13日(日) アカマツ林作業と幼木調査

アカマツ林作業

広葉樹の除間伐を行います。

幼木調査

B地区の調査区画での調査とA~Fの各区でマーキングしているアカマツ幼木を調査します。

1月20日(日) 第2回五ヶ年計画検討会

2018年春から進めてきた新五ヶ年計画、素案をもとに意見交換を行います

2月10日(日) カブトムシの森作業(シイタケ

駒打体験会)☆

カブトムシの森の作業体験のあと、シイタケの菌打ちを行います。

2月24日(日) カブトムシの森作業

除伐、草刈り、落ち葉掻きをします。

3月9日(土) 年度末うん・えー会

当年度議題一活動実績報告、世話役振り返り、会計報告、次年度議題一役員、会員、活動、予算等の関連

3月24日(日) アカマツ林作業

広葉樹の除間伐を行います。

油山自然観察の森 森を育てる会

会報『森ものがたり』季刊発行

編集: 川上寛、国広信幸、鎌田隆、静間純、松雪清人
